

# 産業別四半期見通し調査結果 (2017年10-12月期見通し)


## ■ 県内産業天気図

### ◇ 2017年7-9月期の現況

- 全17業種中、「晴れ（好調）」が1業種、「薄日（順調）」が8業種、「曇り（普通）」が7業種、「小雨（低調）」が1業種となった。

### ◇ 2017年10-12月期の見通し

- 全17業種の見通しは、「晴れ（好調）」が1業種、「薄日（順調）」が8業種、「曇り（普通）」が6業種、「小雨（低調）」が2業種となった。

天気図記号	2017年 4-6月期現況	2017年 7-9月期現況	2017年 10-12月期見通し
 晴れ（好調）	1 業種	1 業種	1 業種
 薄日（順調）	8 業種	8 業種	8 業種
 曇り（普通）	7 業種	7 業種	6 業種
 小雨（低調）	1 業種	1 業種	2 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

## ■ 10-12月期見通しのポイント

- 製造業では、「半導体製造装置」が「晴れ」を維持する見通し。「工作機械」「産業用機械」などの機械工業では、半導体関連、自動車向けを中心に海外需要の増加が続くほか、国内でも安定した需要がみられ「薄日」で「やや上昇」の見通しとなっている。
- 非製造業では、卸小売業は、「大型小売」で「小雨」が続く一方、「機械器具卸」は幅広い業種で設備投資の増加がみこまれ、「自動車販売」は人気車種でモデルチェンジに伴う新型車効果などもあり、ともに「薄日」が続く見通し。

照 会 先  
一般財団法人 長野経済研究所  
調査部（担当：桑井、久保田）  
TEL：026-224-0501



# <産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。


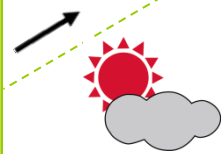
■調査期間：2017年9月中旬～17年10月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の137社

業 種	前期 (2017年4-6月期)	今期 (7-9月期)	来期 (10-12月期)	
工 作 機 械			↗	
半 導 体 製 造 装 置			→	
産 業 用 機 器			↗	
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→	
自 動 車 部 品			→	
光 学 ・ 計 器			→	
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→	
飲 料 製 造			→	
食 料 品 製 造			→	
機 械 器 具 卸			→	
大 型 小 売			→	
自 動 車 販 売			→	
公 共 工 事			↘	
民 間 工 事			→	
旅 客			→	
貨 物			→	
ホ テ ル ・ 旅 館			→	


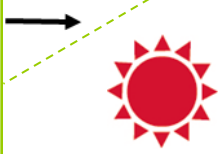
# 当研究所の注目業種

10-12月期見通しの注目ポイント	
<p><b>産業用機器</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 産業用ロボットなどのFA機器は、国内は設備投資の増加から工作機械向けなどを中心に堅調な受注を見込み、海外はスマートフォンやIoT関連製品の製造装置向けが需要をけん引し、順調な動きとなる見通し。</li><li>▶ 車載関連機器は、国内はハイブリッド車などの人気車種向けで安定した伸びが見込まれ、海外は米国における完成車販売の鈍化が懸念されるが、大幅な受注の落ち込みには至らない見通し。</li></ul>
<p><b>機械器具卸</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 製造業を中心に幅広い業種で設備投資の増加が続くとみられ機械設備の需要は順調に推移する見通し。特に、自動化投資のニーズは引き続き高く需要を下支えする見込み。</li><li>▶ 切削用工具類などの消耗品に関しては、自動車関連メーカーを中心に生産が安定して推移する見込みであることから、順調が続く見通し。</li><li>▶ 電設資材の需要は公共工事や製造業の拠点整備などの大型案件が少なく、弱い動きが続くとみられる。</li></ul>


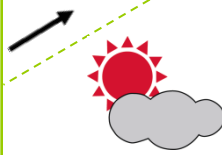
## 工作機械 : 国内・海外ともに受注は順調に推移

<p>現況</p>	<p>国内は、主力の自動車関連を中心に一般機械・半導体・精密関連など幅広い業種で受注は順調だった。海外は、北米向けやドイツなどの欧州向けは、自動車関連の需要が安定していた。アジア向けは、最大の市場である中国で自動車関連の日系メーカーや現地メーカーの需要が順調だった。また、需要が一服するとみられていたスマートフォン関連も底堅く推移した。東南アジア向けは、タイやインドネシアで自動車関連を中心に持ち直しが続き受注を下支えした。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、自動車関連を中心に需要が安定しているほか、幅広い業種で設備投資が見込まれており受注は順調な見通し。海外は、米国向けは自動車関連がけん引し受注は堅調に推移する見込み。欧州向けはドイツを中心に底堅い推移が見込まれる。アジア向けは中国のスマートフォン関連の需要の落ち込みは少なく、また多くの業種で高品質な日本製の工作機械に対する需要が高まっていることから、引き続き高水準の受注が見込まれる。東南アジア向けは自動車関連を中心に持ち直しが続く見込み。</p>
	


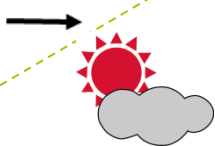
## 半導体製造装置 : 海外を中心に需要は好調を維持

<p>現況</p>	<p>国内は、車載用電子制御装置向けなどの半導体の生産ラインを中心に、製品の高度化に対応した製造装置への投資がみられ受注が増加した。海外は、韓国や台湾でスマートフォン向けなどの半導体製造が活況だったことに伴い、需要は順調だった。また、国策で半導体投資を強化する中国も、データセンター用サーバー向けメモリーやIoT関連製品向けセンサーの製造が増加したことなどから、半導体製造装置の受注は好調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、車載用電子制御装置向けなどの半導体製造装置を主体に、堅調な受注を見込む。海外は、スマートフォン向けに安定的な半導体製造が続く韓国・台湾に加え、中国でも当面は半導体関連投資が増えると予想され、装置需要は好調を維持する見通し。業界全体では、総じて半導体製品に対する技術的な要求水準が高まっており、各社は従来の装置では対応できない微細化や高集積化を実現する付加価値の高い装置を中心に販売を強化するとみられる。</p>
	


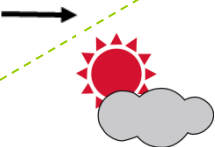
## 産業用機器 : FA機器は海外需要がけん引し順調に推移

<p>現況</p>	<p>産業用ロボットなどのFA機器は、国内は設備投資の増加から工作機械向けなどを中心に順調に推移し、海外は、中国・韓国・台湾などでスマートフォンの製造が活発化し、関連装置向けの受注が旺盛だった。車載関連機器は、国内はハイブリッド車や電気自動車向けの受注が堅調に推移し、海外は米国における完成車需要の鈍化がみられたものの、受注は底堅かった。水冷装置や空調機器は、生産設備の省エネ化などに伴い堅調だった。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、リフォームや機器の入れ替えが需要を下支えした。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>FA機器は、国内は工作機械向けなどを中心に堅調な受注を見込み、海外はスマートフォンやIoT関連製品の製造装置向けが需要をけん引し、順調な動きとなる見通し。車載関連機器は、国内はハイブリッド車などの人気車種向けで安定した伸びが見込まれ、海外は米国の完成車販売の鈍化が懸念されるが、大幅な受注の落ち込みには至らない見通し。水冷装置や空調機器は引き続き省エネニーズに支えられ、住設機器はリフォームや設備の更新需要により底堅く推移するとみられる。</p>
	


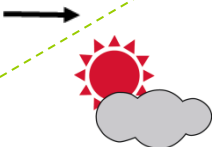
## 電子部品・デバイス：自動車向けは順調、スマートフォン向けは高い受注水準を維持

<p>現況</p>	<p>自動車向けは、モデルチェンジにより安全運転支援システムなどを搭載する車種が広がり、使用される車載用電子部品が順調に推移した。スマートフォン向けは、北米の大手完成品メーカーの新型モデル発売に向けて受注水準が高まり、加えて中国系メーカーからの受注も安定していた。汎用品の中には、新興国など海外メーカーの技術水準向上を受けて、価格競争が激しさを増しているところもみられたが、全体として受注は順調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車向けは、安全運転支援システムなどを中心に車載用電子部品の受注は順調に推移する見通し。スマートフォン向けは、北米の大手完成品メーカーにおける新型モデル発売に向けて、高い受注水準を維持するほか、中国系メーカーから高機能製品向けの部品受注が前期並みを維持することが見込まれる。新興国など海外メーカーの技術的な追い上げにより、一部では厳しい価格競争が続くところもあるが、全体の受注水準は順調を維持する見通し。</p>
	


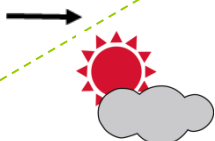
## 自動車部品：需要動向は国内外とも堅調に推移

<p>現況</p>	<p>国内は、新型車を中心に部品受注は堅調に推移した。中でも、軽自動車向けは、モデルチェンジに伴う需要の拡大がみられたこともあり、受注は増加した。海外は、米国で完成車需要に一服感がみられたものの、北米向けの部品受注は全体的に底堅かった。東南アジア向けは、買い替え需要が回復基調にあるタイやインドネシアなどで持ち直しがみられ、受注を下支えした。中国向けは、小型車の取得に対する減税策縮小の影響が一部でみられたが、堅調な受注が続いた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、新型車を中心に部品需要が堅調に推移するとみられる。特に軽自動車向けは、モデルチェンジに伴う受注の拡大が引き続き期待され、需要は増加傾向の見通し。海外は、米国における完成車需要の鈍化は懸念されるが、北米向けは底堅い受注が続くとみられる。東南アジア向けは、引き続き買い替え需要の増加が期待されるタイなどを中心に持ち直しが続くともみられる。中国向けは、小型車取得に対する減税策縮小の影響もほぼなくなるとみられ、堅調な受注が維持される見込み。</p>
	


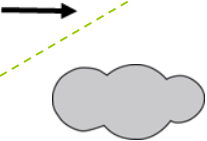
## 光学・計器：計器類は半導体製造装置向けで順調を維持する見込み

<p>現況</p>	<p>光学機器関連のうち、事業者用プロジェクター向けのレンズユニットは海外からの受注が順調だった。自動車向けは、新型車に対する部品受注が増加した。スマートフォン向けは、大手の新製品の受注が増加したほか、中国系メーカーからも一定の受注があり安定的に推移した。デジタルカメラの交換用レンズは、受注数量の減少が緩やかとなった。計器関連は、建機向けや半導体製造装置向けの需要が高水準を維持した。ガスメーターが交換サイクルにあたり堅調を維持、水道用メーターは一部でコストダウンによる価格競争力上昇から増加した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学機器関連のうち、プロジェクターのレンズユニットは、海外を中心に利便性の高い短距離投影の機種向け等で受注増加の見通し。自動車向けも、新型車の部品受注を中心に順調な推移が見込まれる。デジタルカメラの交換用レンズは一部に持ち直しが期待される。スマートフォン向けは、大手メーカーの新機種の部品受注が高水準を維持するほか、中国系メーカーからの受注は横ばいの見通し。計器関連は、半導体製造装置向けは引き続き順調の見通し。ガスメーターは堅調、水道用メーターは一部で価格競争力の高まり等から上向く見通し。</p>
	


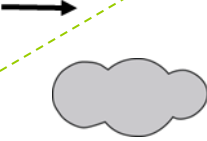
## プラスチック製品 : スマートフォン関連は高い受注水準を維持

<p>現況</p>	<p>自動車関連は、国内の乗用車販売が堅調な中、部品受注が底堅く推移した。スマートフォン関連は、人気機種向けのコネクタ生産では、新型モデルの受注が段階的に増加してピークを迎えたほか、中国系メーカーからの受注も安定していた。容器類は、訪日外国人などにも需要がみられる化粧品向けが順調に推移したが、一部の製品では価格競争が激しさを増した。OA・情報関連では、コピー機などの部品で受注が底堅かった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車関連は、国内の堅調な乗用車販売に支えられ、部品需要は安定的に推移する見込み。スマートフォン関連は、人気機種の新製品の発売により、部品の生産も高い水準を維持する見通し。加えて、中国系メーカーの新機種向けなどの受注も増加する見込み。容器類は、インバウンドやEC取引（電子商取引）の拡大などもあり、化粧品向けは引き続き堅調に推移するとみられる。OA・情報関連は、コピー機などの部品受注が横ばいの見通し。</p>
	


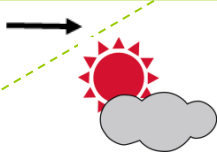
## 飲料製造 : 清酒・ワインは需要期を迎え販売量を確保

<p>現況</p>	<p>清涼飲料水は夏場の需要期を迎えて生産量が増えたが、当初の猛暑予想に反して天候不順となり、想定したほど需要は伸びなかった。果汁・野菜飲料は、需要は安定していたものの夏場に雨天が多く原料が不足し、供給量が追いつかない企業がみられた。清酒は、純米酒などの特定名称酒や季節限定の生酒・冷酒、甘酒などの需要が底堅かった。ワインは、国産原料を用いた日本ワインを中心に堅調な動きとなった。飲料業界全体では、果樹などの原料不足や段ボールなどの包装資材価格が更に上昇するなど、仕入環境はやや厳しさを増した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>清涼飲料水は気温の低下に伴いホット飲料の生産も増加し、総じて例年並みの需要を見込む。果汁・野菜飲料は原料不足から十分な供給量を確保できないメーカーもあり、販売量は例年を下回る可能性がある。清酒は年末に向けて最需要期を迎え、特定名称酒に加え発泡性のあるスパークリング酒などを中心に売り上げ増加が見込まれる。ワインも醸造の本格化とともに消費の増える時期となり、観光需要の取り込みも含めた販売促進が期待される。飲料業界全体では、原料不足や包装資材の価格上昇などから、収益面への影響が懸念される。</p>
	


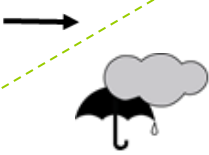
## 食料品製造 : 消費者ニーズを捉えた商品を中心に販売は堅調に推移

<p>現況</p>	<p>味噌は、即席や減塩などの商品が堅調だったが原料米の価格は高い水準が続いた。加工肉は、無添加など安全性を訴求する商品の販売が拡大した。製粉は、そば粉の原料である玄そば価格が前年を下回って推移したことに加え、販売量も前年並みを維持したことから収益は改善した。大豆関連商品、乾燥食品は、健康への関心が高まる中、健康増進に効果が期待される商品などの売り上げが堅調に推移した。しかし、原材料価格は乾燥食品など一部で上昇がみられ、収益を圧迫した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>味噌は、簡便さや健康を訴求した商品などの販売は底堅いとみられるが、原料米価格は高止まりが続く見込み。加工肉は、食品の安全性に対する需要の高まりから、関連商品の売り上げが伸びる見通し。製粉は、原材料価格が引き続き安定的に推移するとみられるほか、年末の需要期を迎える中、例年並みの販売量を確保する見通しで、収益環境の改善が続く見込み。乾燥食品、大豆関連商品は、健康などの消費者ニーズを捉えた商品の販売が堅調に推移する見通しであるが、一部の原材料価格の高止まりに伴う収益への影響が引き続き懸念される。</p>
	


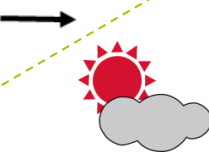
## 機械器具卸 : 機械設備の需要は順調

<p>現 況</p>	<p>製造業を中心に幅広い業種で設備投資の動きがみられ、機械設備の需要は順調に推移した。投資目的は機械の老朽化に対する維持・更新が中心であるが、増産や人手不足に対応するための自動化も多くみられた。機械に取り付ける切削用工具類をはじめ消耗品の需要は、製造業の生産が増加したことに伴い順調だった。配線機器や分電盤など電設資材の需要は、公共施設や製造業の生産拠点などの大型案件が少なく伸び悩んだ。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>幅広い業種で設備投資の増加が続くとみられ、機械設備の需要は順調に推移する見通し。特に、自動化投資のニーズは引き続き高いことから需要を下支えする見込み。切削用工具類などの消耗品に関しては、自動車関連メーカーを中心に生産が安定して推移する見込みであり順調な見通し。電設資材の需要は公共工事や製造業の拠点整備などの大型案件が少なく、弱い動きが続くとみられる。</p>
	


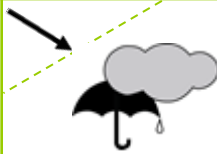
## 大型小売 : 食料品に期待するも、衣料品は苦戦が続く見通し

<p>現 況</p>	<p>百貨店は、9月以降気温が大きく低下したことから、秋物衣料などの出足は順調だったものの、夏物衣料が不振となり、衣料品全体の売り上げは低調に推移した。食料品は、中元ギフトなどはほぼ前年並みとなったが、ギフト以外の食料品の動きは弱く、売り上げは前年を下回った。スーパーは、野菜の相場高などにより生鮮食品を中心に堅調に推移した。一方、消費者の低価格志向から競合店間の価格競争が続いたほか、人手不足によりコストが増加したこともあり、収益環境は厳しいものとなった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>百貨店は、人気の物産展などを中心に催事を強化していくほか、冬のセールや年末商戦なども充実させる見通し。お歳暮ギフトなどは前年並みの売り上げが見込まれるものの、衣料品は引き続き厳しい状況であり、冬物衣料などは苦戦が予想される。スーパーは、生鮮食品を中心に堅調な推移が見込まれるほか、鍋物食材など季節商品の売り上げ増加が期待される。一方、消費者の低価格志向や人手不足の問題は今後も続くことが予想されるほか、新規出店などにより競合店間の競争は激しさを増す見通し。</p>
	


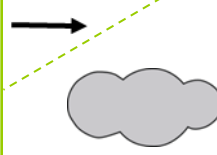
## 自動車販売 : 新型車を中心に堅調な販売が続く

<p>現 況</p>	<p>新型車に対する需要の高まりなどから、新車販売台数は前年を上回るなど堅調だった。車種別では、低燃費車種やSUVなどの販売が好調に推移した。また、安全面に対する関心の高まりから、安全性能の高い車種も販売を伸ばした。中古車は、新車販売の増加が下取り車の確保につながり、車両不足がやや改善したことで、一部では売り上げの持ち直しがみられた。輸入車は、車種拡大などの効果により、幅広い年齢層で販売が堅調に推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>新型車を中心に、販売は引き続き堅調に推移するとみられる。特に、軽自動車は、売れ筋車種のモデルチェンジに伴う販売の増加が期待される。一方で、一部完成車メーカーによる無資格検査の問題は、リコールへの対応や再検査に伴う納期の遅れなどにつながるとみられ、販売への影響が懸念される。中古車は、堅調な新車販売に伴い、車両不足の改善が続き、売り上げは持ち直す見通し。輸入車は、車種の拡大などに伴う需要増加から、引き続き堅調に推移するとみられる。</p>
	


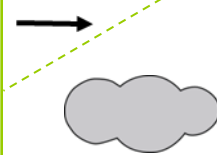
## 公共工事 : 受注競争の激化による収益環境の悪化が懸念される

<p>現 況</p>	<p>中部横断自動車関連の土木工事や複数のごみ焼却施設工事がみられたものの、新たに発注された工事件数は少なかった。県内工事の大半を占める県や市町村は、大型工事が少なく、全体の工事量は前期を下回った。業界の構造的問題である人手不足は、現場代理人などが特に深刻で、入札の見送りなど受注機会を逃すことにつながった。また、国が進める下請け事業者の社会保険への加入義務化が、一部企業の労務費上昇を招き、収益を圧迫させた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国は、中部横断自動車道の工事発注に一服がみられ、今後は三遠南信自動車道に関連する土木工事に期待がかかるが、着工は来期以降になる見通し。県や市町村は、既存施設の改築工事が複数発注される見通しであるが、予算額の縮小から工事件数の減少が見込まれ、全体では前期を下回るとみられる。改善される見通しが見つからない人手不足を背景に、労務費は高値圏で推移するとみられる。また、工事件数の減少による受注競争の激化が、収益環境を悪化させる懸念がある。</p>
	

## 民間工事 : 新設住宅は底堅く推移するも、貸家は弱含む見通し


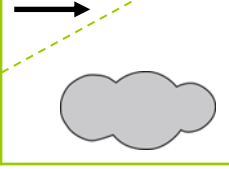
<p>現 況</p>	<p>民間企業の建設投資は、製造業では食品工場、非製造業では福祉施設を中心に新設工事があったものの、全体の工事量は盛り上がりを欠いた。新設住宅は、貸家で相続税の節税策の需要に慎重な動きがみられたものの、持家の低価格商品に対する需要が底堅かったほか、大型マンションの着工による下支えもあり、前期並みとなった。業界の人手不足は依然として改善されず、一部では、人手の確保ができなかったことで新規受注の見送りをした企業もあった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>民間企業の建設投資は、製造業では食品工場の新設工事、非製造業では福祉施設や再開発案件等の建設工事が予定されているが、盛り上がりには欠けるとみられる。新設住宅は、貸家の建設が弱含むとみられるが、持家の低価格商品の需要が引き続き見込まれるほか、大型マンションの着工が下支えとなり、底堅く推移する見通し。人手不足にとまらぬ労務費や資材価格は今後も高値圏で推移するとみられ、厳しい収益環境が続くと見込まれる。</p>
	

## 旅客 : 観光やイベント需要を中心に底堅く推移する


<p>現 況</p>	<p>信州デスティネーションキャンペーン（信州DC）が開催されたものの、7月下旬から天候不順が続いたこともあり全体的に盛り上がりを欠いた。バス関連は、山岳観光の需要を取り込み順調に推移したが、ドライバー不足により収益機会を逸することがあった。タクシーは、夜間利用は低調であったが、通院やビジネス関連等による日中利用は底堅かった。鉄道は、信州DCの影響による利用増は限定的であったものの、地元の酒類・食を提供するイベント列車が人気だった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>貸切バスは、秋の行楽シーズンを迎え、観光や学校の遠足等のイベントによる需要で底堅く推移するとみられる。高速バスは、年末年始の帰省による利用を例年並みと見込む。タクシーは、日中の利用は底堅いが、夜間利用は盛り上がりや欠くとみられる。鉄道は、人気のイベント列車を中心に収益を確保する見通し。バス、タクシー業界ともにドライバー不足は改善の目処が立っていない。ドライバーの待遇改善に伴う人件費などのコスト増加により収益環境はやや悪化する見通し。</p>
	



## 貨物 : 貨物量は堅調も、コストの増加が収益を圧迫する見通し

<p>現 況</p>	<p>貨物量は全体では微増となった。荷種別では、前期に続き自動車部品が好調であった。海外向けの建機やその部品、新規の設備投資に加えて既存設備の集約等による大型機械の荷動きが堅調であった。食品は一部で堅調な動きはあったが、全体としては例年並みとなった。ドライバーの確保が引き続き課題であり、採用の幅を広めたが、定着率は低く効果は限定的となった。加えて、燃料価格、人件費、一部の庸車代の上昇により収益が圧迫された。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>全体の貨物量は堅調に推移する見通しであるが、人手不足により受注量に制限がある。自動車部品は好調が予想され、建機や大型機械は引き続き堅調な推移が見込まれる。一方で人件費、庸車代が上昇していることから収益は圧迫される見通し。人手不足への対応は大きな課題であり、臨時雇用を含めた採用活動、採用後の人材育成や従業員への利益還元などの従業員定着に向けた取り組みを継続させる必要があり、コスト増加の要因となる。人手不足による受注量の限界やコスト増加に対応するため、荷主からの適正価格の収受が課題となる。</p>
	

## ホテル・旅館 : 秋の行楽シーズンを迎え、堅調な利用を見込む

<p>現 況</p>	<p>観光客による利用は、全体として堅調に推移した。7月下旬から8月にかけて曇りや雨の日が多く、9月の3連休は台風に見舞われるなど天候不順の影響を受けたが、信州DCの開催により、山岳高原を中心として利用を伸ばした観光地もみられた。また、北アルプス国際芸術祭などイベントの開催に伴う宿泊客が増加した地域もあった。ビジネス客は、都市部のホテルを中心に底堅く推移し、平日の稼働率を下支えした。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>秋の行楽シーズンを迎え、観光客による堅調な利用が見込まれる。信州DCの開催により認知度が高まった地域もあり、利用増加が期待される。ビジネス客は、都市部のホテルを中心に、引き続き底堅い利用を見込む。ブライダルは、秋の人気シーズンを迎えるが、挙式形態の多様化が進む中、件数はやや低調に推移すると見込まれる。宴会部門は、年末の忘年会による堅調な利用が期待される。スノーシーズンに向け、スキーや観光を目的とした外国人観光客による利用が見込まれる。</p>
